

雜 錄

●佛國の採鑛冶金に就て

(三月十日佛國宣傳艦隊員の東京商業會議所に於ける講演)

ドヴィトリ、ダヴォクル君

工學博士 櫻 井 省 三君譯

會長閣下、諸君、是れより佛蘭西の採鑛冶金と云ふ問題で、講演を致しますから暫時御清聴を煩はします、此問題は随分數字がありまして複雑な問題でありますから成る可く簡單明瞭を主として申し上げます暫く御辛抱を願ひます。

日本の如き大工業國と雖も國內の材料を以て内地の工業に一から十まで供給することは殆んど不可能であります、佛蘭西に於ても矢張り同様であります、例へば絹織物工業にしても其原料は残らず日本から仰がなければならぬと云ふ有様であります、日本も鐵と云ふものはさう澤山ありませぬから何處からか仰がなければならぬと云ふ有様であります、そこで佛蘭西が戦争の結果一大鐵國となりましたけれども戦争の餘波が未だ治まらぬのと近來世界的の財界が困難不振の爲めに思ふやうに其製鐵事業が未だ運ばぬのを遺憾としつゝある、併しながら佛蘭西が非常に努力しまして製品を十分に拵へてさうして代價を思切つて下げて日本のやうな國へ持つて來ても必らず日本の御満足を得るやうに成るべく努めて居りますからどうか我國の努力を皆さん御了解あらんことを偏に希望致します。

戦争中佛蘭西が鑛山のある所は敵の爲めに減茶々にやられてしまつた、唯さへ足らない石炭が益々足らなくなつて來た、どうしても水力電氣に依らなければ工業が出來ぬと云ふことを非常に感じました、それから水力電氣が餘程發達致しました。

それから佛蘭西の國內で産出する所の主なる鑛物のことに付いて少しく御話を致します、先づ第一に石炭のことを御話致しますが、大正二年即ち戦争の始まる前には佛蘭西國內に於ける産額は四千萬噸でありました、併し佛蘭西國內で使ふ所の消費高は六千萬噸である、故に年々二千萬噸少ない、之は輸入で補つて居つたのであります、然るに戦争が始まつてから敵に炭坑を減茶々にやられてし

まつた、それが爲めに産出は半減されてしまつた、それだから四千萬噸が二千萬噸になつた、足らぬ所が四千萬噸になつた、どうしても是れでは工業はいけないと元ふ非常な悲惨な有様に陥つた、之を戦争後に復活して、復舊して、もとの通りにやるには今から八年、大正十九年でなければ元の通りにはならぬと云ふ譯であります、此破壊の形状を一寸御話しますると石炭坑の中に水の量が八千萬噸入つて居る、それを一々抜いてしまはなければならぬ、炭坑の職工の住宅は十萬人分皆壊はされてしまつた、それから鑛山の中から水を抜いて職工の住宅を建築し炭坑の内外を修繕し設備を完成し再び採炭事業を開始するに要する費用は實に二十五億萬法、日本の金にして一圓を八法として三億圓を要する、斯様に石炭の復舊のみでも非常な重荷を負ふて居ります、先づ其其例として明治三年に獨逸に取られたアルサス、ローレンの二州を回復しました、此二州が非常に鐵があるそれを佛蘭西と佛蘭西の屬領を皆集めると、世界の鑛石の有高の殆んど半分は佛蘭西にある、斯う云ふことになる、此戦争の結果佛蘭西は俄に一大鐵國となつた譯であります。

それから鐵の鑛石のことを御話致しますが之は世界の産額が一億七千萬噸である、此中で佛蘭西が百分の一三、六で列國中第三位を占めて居つた、それが大正二年の戦争の始まる前のことであります、米國が百分の三七を以て第一位に居りました、獨逸とルクサンブルグ各々百分の二十一を以て第二位に居りました、目下の所は正しき統計の數字もありませんからよく分りませぬが、たしか佛蘭西は列國中の第二番目と考へます。

アルミの鑛石は大正二年、戦争前に佛蘭西は三十萬噸を出すことが出來た、さうして世界中の第一位に居りました、米國が十萬噸で第二位に居りました、然るに戦争後同盟罷工があつたり種々なことで此産額が半減せられてしまひました、まだ十五萬噸でありますから米國の上位に居る、斯う云ふ譯であります。

次に戦争後佛蘭西の工業の復舊に就いて申し上げます。佛蘭西は戦争の爲めに石炭の産額を半減されたのみならず又佛蘭西の鑛山や工業の中心地は獨逸と北東の境にあつたから、非常に荒されました、鐵の鑛石の出る高が百分の八十三減つた、銑鐵が六十四、鋼鐵が六十三、銅が八十二、鉛が二十三、亜鉛が七十三減つた、而して此有様が戦争が濟んでまだ續いて居つた譯は、敵に戦争の結果で壊されたのではない、悪意を以てすつかり減茶々に壊はされてしまつたのである、一例を申して見ると銑鑛爐を七十五ばかり壊はされた、十萬噸の器具機械材料を

持つて行つてしまつた、此の回復が出来ぬので今日迄佛蘭西の思ふ通りに往かない。

さう云ふ有様であるが、愈々戦争をしなければならぬと云ふことになつた時に佛蘭西の中で最も高名なるシウナイデル會社は一の製鐵所を立てた、年に三十萬噸の鋼を拵へるやうになつた、其製鐵所を拵へた成行を一寸御話しますが、是れ丈の製鐵所を九箇月で拵へたが、實に戦争中の勢は酷いものである。愈々其製鐵所を拵へる決議したのが大正四年九月一日、それから其數地の土工を起したのが十一月一日、建築を始めたのが大正五年一月一日、愈々製品を出したのが大正五年八月一日、丁度九箇月の間に土工からすつかりやつて製品を出すに至つたのであります。

それと同時に佛蘭西に於きましては十二の鑄鐵爐を造つて、年額六十萬噸の製鐵を拵へることの計畫を立てた、百三のマルチン爐を築き年額百五十六萬噸の鋼を拵へました、四十七のベスマーコンベルタ爐を拵へて年額二十四萬噸の鋼を拵へました、二十一の電氣爐を拵へて年額五萬六千噸の鋼を拵へ又多數爐を拵へまして千二百三十九の坩堝を使用して年額三萬噸の鋼を製造することになりました其動力が如何に足らなかつたと云ふことを見る爲めに戦争前の數字を比較して見ると明かに分りますが、戦争前には佛蘭西にはカテルングの爐が百五十二しか無かつたベスマーコンベルタ爐が百、坩堝爐が八百九十六、電氣爐が二十四、戦争前には誠に少なかつたが、戦争に就いては前申すやうに多くなつた、之れで佛蘭西がどれだけ努力したかと云ふことが分ります。

然るに戦争が終るや折角築き上げた此爐が悉く役に立たぬやうになつた、再びやり直さなければならぬとになつた、それで改良したる基礎の下に又やり直したそれと戦争の爲に用意したる其工場に於て戦争の材料を拵へた、戦争が濟んで夫れから平和の頃になると此機械の装置は逆も是れではいかぬと云ふので今度平和の装置に變へてしまつたのであります。

それから水力電氣のことを少し御話致しますが、佛蘭西の鑛業即ち鑛山の事業が発達すると却つて石炭が足りなくなる、どうしても水力電氣に依らなくてはならぬと云ふ必要が非常に激甚になつて來ました、さうして水力電氣に力を入れるやうになつた、全世界の水力電氣の高は七千萬馬力で、其中で佛蘭西は八百萬馬力を有つて居る、此炭坑が復舊せられて來ますと其石炭の足らない分は八百萬馬力で補缺する計畫であります、佛蘭西では水力電力が可成り昔から發達して居

りまして明治三十五年には二十萬馬力、大正三年には七十五萬馬力、大正八年即ち戦争の終には百五十萬馬力を持つて居りました、大正十二年即ち現今に於きましては二百十萬馬力、大正二十二年、今から十年経ちますと四百萬馬力になる即ち十年経ちますと佛蘭西の持つて居る力の半分を起すことが出来る、此水力電氣の源は何處かと云ふとロヌ河、アルプス山脈、佛蘭西の中央部にある高い所そこからよく水が出て来る、是れから水源を取る、斯く水力電氣と共に一方には火力で起す電氣、蒸汽力で起す電氣の方も決して等閑に附しては居りませぬ、隨分佛蘭西では之をやつた居るのであります、殊に佛蘭西の中央發電所、ゼルムゼリンに出來た世界第一等とも言はれるやうな建築の中央發電所がある、此所では目下二十萬キロワットを有つてやつて居ります。不目四萬キロワットの發電機三臺を拵へ、電力三十二萬キロワットにする計畫であります。此電氣の供給は地下線を以て六萬ボルトの壓力で導くと云ふのである。此様な大膽な計畫は今迄何處でもやつたことはない。

水力電氣及び蒸汽力電氣の發電の總ての装置機械は皆佛蘭西の電氣工業會社で造ります、其處で出来る品物は國內で用ゐられるのみならず外國へも出して居ります、其重なる品目は發電機、交番發電機、蒸氣タービン、電線、それは鋼の線、アルミの線、又輸出する國々は歐羅巴諸國、殊に南米諸國であります。

電氣の力を御話しますに就きまして一寸御話しなければならぬのは、佛蘭西の無線電信電話が非常に發達して居りまして此佛蘭西の無線電信電話は機械が非常に良いと云ふ評判を博して居ります。

それから電氣爐は鋼の製造に大貢獻を致しまして、銅の不純物殊に硫黃分を全く取り去ることが出來た、又鐵の合金、是も電氣爐で出来る、此電氣爐も佛蘭西のエルール、ジロー、チャプレー氏等の發明したる装置が、銅の製造に非常な大貢獻を致しまして、殊にエルールの電氣爐はアルミを拵へる爲めに非常に役に立つといつて世界一般に用ゐられるやうになつた。

今迄御話致しましたことは鋼製造鐵製造の大體の一般の話であります。是れから本文に這入つて鋼製造のことを御話致します、佛蘭西の一ヶ年に製造致しまする能率と産額は、鐵の鑛石の産額が一年四千三百萬噸、銑鐵の製造能率が一千萬噸、鋼の製造能力が五百萬噸であります。併し先程御話した通り世界的の財界不振の爲めに是程の能力を持つて居りながら、實際製造して居るものは大正十一年に銑鐵が四百萬噸、鋼が三百五十萬噸であります。佛蘭西が是等の品物を輸出するは

元とから大分努力して居りまして近頃も大いに努力して居ります。大正二年には獨逸、英吉利、米國、白耳義、其次が佛蘭西で、即ち佛蘭西は五番目であつた、今日は一千萬噸の鐵類を世界に輸出しまして、たしか第三番目に位するやうになりました併しながら此量は英國の半額で、米國の四分の一、獨逸と同じで白耳義より少し多いと云ふに過ぎない、誠に微々たるものである。此輸出の競争が自然に製造の代價を減じて成る可く安くして早くどつさり賣らなければならぬと云ふやうな考が起つて、相當原價材料が安くなつた、此結果として日本のやうな遠い所へ持つて來ても決して競争に負けない積りであります。どうぞそれを御覺へ下さるやう願ひます。

それから佛蘭西が一大鐵國となつたに拘はらず世界の市場に於て未だ重きをなされて居ない。之はどうか云ふ譯であるかと申しました、第一番に佛蘭西で出来る鐵材は戰爭中に壞はれた、機械とか何とか各種の工事に關する復舊をなしつゝあるが故に多くを外國へ出す餘裕がない、それでも佛蘭西の鐵は佛蘭西人直接からは出來ないが、白耳義や英吉利を経て、英吉利人白耳義人の手から出て居るものが大分ある。さうして濠洲や南米でも白耳義から來たといつて居るが、其實は佛蘭西のものが大分這入つて居る。他日佛蘭西の復舊工事が濟んだら、國內の爲めに鐵が要らぬから、どうしても輸出をしなければならぬ、其時分には段々佛蘭西が位地を得てさうして世界の市場に大なる位地を占めると考へるのであります。併しながら今でも日本の望まれる所の鋼材原料其他製品器具機械等は何時でも供給致し御満足を與へるとが出来るのであります。

從來外國へ出しました鋼製品の重なるものを數へて見ますと鐵道、ガーター鋼若くは鑄鐵の大小管、それから都市の上水下水増置設備材料、機關車、機關車付運搬車等である、又輸出します國は日本と殆んど同一の距離にある所のパンコック又はパタジャ、支那、南米諸國に出して居ります。殊に支那には北京と漢口の間の鐵道の重要品は皆佛蘭西で供給して居ります。其他歐羅巴でも南亞米利加でも少し美しい、華美なる家庭建築、殊に大橋梁の如きものは多く佛蘭西から供給致して居る。

もう一つ御話を致しますが、佛蘭西の工業品のことです。良い自動車は佛蘭西で發達した、殊に形の小さい速力の早い取扱宜いものが大分此節は佛蘭西で賣れる。之も佛蘭西の特色であります。日本へも大分來て居るやうに見受けるのであります。もう一つは飛行機の機械であります。之はなか／＼發達して

居る、さうして佛蘭西のものは大變宜しいと云ふことであります。之は少し問題から遠ざかつて居りますから夫れ丈けのことを申上げて置きます。

それからアルミの製造のことを御話致しますが、アルミの鑛石ボクサイドと云ふものは佛蘭西が世界第一の量を有つて居る。大正二年の産額は佛蘭西に於て一萬二千噸、世界の第二位に居つた、北米合衆國が三萬噸で世界第一位に居つた、英吉利及スイスランドは佛蘭西の下にあつた大正十二年の現今に於きましては北米合衆國は九萬噸で第一位を占めて居る。佛蘭西は三萬噸で第二位を占めて居る。それで、佛蘭西は世界の二位であるが歐羅巴では第一位である。そこで此三萬噸の内譯は佛蘭西國內で製造するのが一萬五千噸、瑞西で一萬二千噸、伊太利で三萬噸であります。瑞西と伊太利の工業は即ち佛蘭西の事業である。其國でやつて居る工業は總て佛蘭西の者がやつて居る。

此佛蘭西のアルミの製造能力は一年に五萬噸であります。今は一萬五千噸出して居る。もう之を一萬噸出すことは即ち半分二萬五千噸に達することは可能なることとあります。それで佛蘭西では世界の市場に於て今日からアルミに對しては決して他に負けない様に供給することが出来るのであります。日本に於きましても此佛蘭西のアルミの製造高とアルミの價格等をよく御研究あらんことを願ひます。終りに臨みまして一言御挨拶を申し上げますが、此簡單なる粗末なる講演を御謹聽下さいましたことは誠に有難く存じます。まだ時間があれば商賣上の題目に就きましてゆる／＼御話を致したいと考へますが、實は之は在横濱山下町六十番佛蘭西商務官ロイド氏が擔當して居りますから、御用の節は同氏に話さないまして同氏とよく御相談を願ひます、どんな御便宜でも與へ、どんな材料でも差上げますから、どうか同氏に御話を願ひます。唯皆さんに御注意を一つ願ひたいのは佛蘭西が鐵とアルミに對して非常に原料に富んで居り同時に其金屬を輸出する大國となつたと云ふことを御記憶を願ひたい、どうぞ此佛蘭西の其他の發展に就いても御注意下さるやう願ひます。それに此節は「法」が非常に安く、戰爭前から見ますると四倍迄はありませぬが、三倍半は下つて居る。之は兩國の貿易上日本に有利と考へます。佛蘭西は今日より日本の求めに應じて鐵やアルミ其他の製品を供給することに致します。如何なる競争も恐るゝに足らぬのであります。終りに臨みまして我々は日佛の關係が商賣上相離れぬ利益に於て結付き、益々親密となつて、平時に於ても戰時の如く更に手を取つて相助け合ひ大いに平和に貢獻するやう努めたいと存じます。

●製鐵販賣合同に就て 一時沈衰し切つた我鐵市況界はルールの關係で本春來非常な活況を現出し曩には八幡製鐵所も歐米方面の價格に順應すべく、相踵て二回迄も鐵價の引上を斷行した程で此調子で夏枯れ時期を押し行けば戦後の不況で半死半生の状態にある、我鐵界も多少復活して景氣を持直すべく期待されて居たが、元來需要に乏しい、我國昨今の事であるから、何時の間にか此期待は裏切られ前月來漸落氣分一入濃厚となり、目下では何れの鐵商人も青息吐息の状態にある、一方再燃した、製鐵合同問題も結局物にならず、加ふるに市況は右の如くであるとすれば我鐵界を救済するにはどうすればよいかと云ふ事になるが、現状態では勢ひ好結果を得ないから、或は八幡製鐵所でも販賣方法を改良するととの説もあり、此件に就き一課長の語る處に依ると、

惟ふに八幡製鐵所を加盟せしめた製鐵合同が不可能であるとすれば、先づ民間丈け合同するか、夫も出来なければ生産合同から離れて即ち獨逸のカルテル式に販賣合同が必要である、我國ではまだ何等斯る計畫のあるを聞かないけれども近き將來には必ずや其販賣合同が實現すべく之が爲め差當り他に救済の途はないやうに思ふ云々。

●漢冶萍公司の製鐵高増加 日支合辦の製鐵所漢冶萍公司の營業は最近非常に發達し製鐵額毎日三十噸を上下し將來四百五十噸に達すべく、現在の状況より推せば該公司の巨額の負債も全部償還の望があるといふ。

●漢陽鐵の輸入 三菱商會社は先頃漢陽銑鐵一萬噸の引合に應じ近日輸入する筈であるが、昨今漢陽製鐵所はまた引續き銑鐵一萬噸の引合を本邦へ發してゐる従つて、同製鐵

所現在貯蓄が幾何であるか確然と判明しないので何時本邦銑鐵市場に投賣を開始するやも計られぬと警戒されてゐるが最近船運賃が上向き歩調となつたので、漢陽及印度銑も餘程格安で投賣しなければ本邦市場で引受困難であると豫測されてゐる、故に目下銑鐵市場はやゝ不安を感じてゐるけれど大體小康を示してゐる。

●鞍山製鐵所製鋼業開始 滿鐵では鞍山站鐵製所の貧鐵處理法が確立次第一箇年十五萬噸の能力を有する工場の運轉を開始し同時に銑鐵のみでは販路狹小であるため、銑鐵を原料として鋼板、棒、レール等を製造する計畫があつたところ資金の關係上實現を見るに至らなかつた、然るに前記の貧鐵處理も最近に及んで大體方針が決したのと、内地製鐵業者間で滿鐵銑鐵の市場賣出しは、市場に著しい影響を與へるため寧ろ滿鐵に製鋼所設立を希望する向もあり、かたゞ川村社長も就任以來同製鋼所の經營に對しては製鋼所設立を必要と認め來つたので、いよゝゝ目下休止鑄鑪に火入を開始する程度に立至れば製鋼所の設立にも着手することに内定して居ると。

●本溪湖製鐵所作業開始 大倉鑛業會社の本溪湖製鐵所は銑鐵市價暴落した爲め、去る十一年末以來製鐵作業を中止してゐたが最近に至り、銑鐵市場が休止當時に比してやゝ回復したのと一方昨今の内地銑鐵蓄藏高(大連蓄藏を含む)が戦前の平均二十萬噸より約五萬噸餘減退してゐるので、近頃同社内に火入開始の内議があつたところ、いよゝゝ來る六月から一日三十噸爐一基の火入を決行するに内定し、目下それ／＼準備中であると。

●東京製鋼擴張 東京製鋼會社では月島、洲崎、深川の三工場を一地域内に統一し併せて將來の擴張に備ふる爲め日東製鋼會社川崎工場及その附屬地を買入るべく、豫て交渉中の處今回大體その纏まりを見たるを以て去月二十五日東京地學協會内に臨時株主總會を開いて次の二議案を附議したる所滿場異議なく可決した。

第一、日東製鋼會社川崎工場及附屬地の買入れ資金に充當する爲金百五十萬圓を左記條件にて借入る、件。

(イ) 利率一ヶ年七分三厘。

(ロ) 償還方法及期限大正十四年迄据置き大正十五年より同二十一年十一月二十五日迄に一ヶ年金十萬圓以上の割合を以て償還す。

(ハ) 右の外借入先、借入時期並に附帶諸事項は凡て取締役會に一任す。

第二、前記買入物件を以て工場財團を組織し、第一議案の借入金に對し第一順位の抵當權の設定を爲す件。

●チエツク鐵材輸入

佛國がルール占領の結果鐵材の

東洋向輸出は一頓挫を來すに至つた、其結果としてチエツクスロバキアから最近に約を五千噸の棒鐵輸入契約成立した、積出港は漢堡港である、同國の製鐵事業は未だ輸出するまでの製造能力はなく月産二萬五千噸内外に過ぎぬが、石炭は相當豊富で、今後月産五萬噸程度に能率を高むるも自國炭にて十分である、製鐵材料の鑛石は波蘭地方より輸入せねばならぬので將來繼續して輸入することは難いが、材料の供給が得らるれば毎月五六千噸の輸出は出來やうと。

●英米佛製鐵業と獨逸

ベスレーム製鋼會社社長チャ

ールス・エム・シユワツプ氏は四月十九日紐育にて演説して曰はく英米佛三國の製鋼業者の間に協定を造り、外國市場に於ける破壊的競争を終熄せしむる方法を講ぜん事を勸告し鋼鐵製品を外國市場へ安價に配給する協定が成立せぬ限り、獨逸産業は結局復活して競争に依つて、吾等を廢滅させるだらうと述べた。

●米國鐵道鐵材運賃引下

サバンパシフィック鐵道會

社は海外に輸出する目的を以て、市俄古の西部より太平洋岸に積出す銑鐵及び鋼鐵の運賃を約一割引下げる事に決した。

●英國鐵鋼市況

四月廿八日在倫敦松山商務官來電

石炭は歐大陸の註文一杯にて新規引合見送の状態取引幾分閑散、市價一般に高含み、アドミラルティー一等炭四十二志六片。

銅は米國の需要充足の報傳はり幾分軟調、内地向輸出向引合目下中絶せるも遠からず活氣を呈すべく豫期せらる、標準銅七十三磅十志、電銅八十一磅十五志。

銑鐵は需要旺盛なるも在荷拂底にて取引閑散、ルール問題解決後歐大陸の競争を氣構へ、幾分不安の感あるも大體に於て先行強氣クリーブランド三號百二十七志、鋼鐵依然強調、歐大陸方面の買氣相當なるも高値の爲め引合減少の傾向、先行幾分下押す、シツプ、プレート十磅十五志。

鉄力は最近の値上にて買控へ稍々軟調を呈せしも原料高の爲引戻し二十五志六片を唱ふ、内外共に引合一般に閑散、日本よりの註文復興ブラツク・シートは東洋方面の引合相當なるも工場は註文一杯にて見送り市價持合、日本向百七封度物二十一磅。

亞鉛板は印度よりの註文減少せるも南洋濠洲方面の引合相當、依然品薄にて市況手堅く日本向六十七枚もの六磅十志。

●米國鐵鋼市況

四月十八日在紐育西商務官來電

銑鐵 銑鐵生産激増需要者側勞働不足の爲買控コース下等の原因にて弱含み、鋼鐵一割一步の賃銀値上は生産に一噸に付一弗七十五仙の増加となるに拘はらず、其後價格に變化なきは既に賃銀値上を豫期し價格引上ありたるが爲なり、手持註文滿腹にて製品輸出は高値の爲見送り。

銅 銅は十七仙に下落、内外とも機會待ちにて閑散先行弱氣の相場は其後新規註文減少の爲落着きを示すに至りたるが目下値段下落の模様なり就中 O. H. Sheet bars は四月二十六日ピッツバーク渡四十六弗に下落せり。

●鐵鋼市況 銑鐵は大勢に影響する程活潑な取引振りを示さないけれども昨今需用季節だけに小口の取引は相當行はれて居り、又海外市況も大體相變らず強調を持續し且つ目先差したる惡材料もないから、相場は引續き保合状態を呈し標準物たる輪西一號六十五圓、兼二浦一號六十三圓見當を唱へて居る。

鋼材 鋼材類は海外市場の強調に刺戟せられ餘り取引の活潑でないのに一時思惑的に上げ過ぎた爲め其反動として漸落歩調を辿つて居つたが、海外市場は引續き強調を持續し當分下押す可き悲觀材料なく且つ投物も漸く影を沒するに至つたので最近再び硬化した。

●製鐵所官制改正

大正十二年五月十六日製鐵所官制を左の通り改正せられたり。

第十條 製鐵所ニ長官官房及左ノ部所ヲ置ク。

技 監 葛 博 士 臨時建設部長 沼田 技師

庶務部 山 縣 參 事 監理部 葛 技 監

工務部 景 山 技 師 動力部 岸 原 技 師

銑鐵部 向 井 技 師 製鋼部 久 保 田 技 師

鋼材部 永 田 技 師 特殊鋼部 小 原 技 師

副産部 黒 田 技 師 經理部 副 島 次 長

販賣部 森 谷 理 事

研究所 宗 像 技 師

第十一條 長官官房ニ於テハ機密及人事ニ關スル事項ヲ掌ル。

庶務部ニ於テハ庶務、取締、現業員共濟組合、職工教育、病院及土木建物ノ買

買貸借ニ關スル事項並他ノ主掌ニ屬セサル事項ヲ掌ル。

監理部ニ於テハ原料、納品、機械、諸裝置及諸工事ノ検査並各部作業ノ聯絡及

鐵山ニ關スル事項ヲ掌ル。

工務部ニ於テハ工事ノ計畫及實施ニ關スル事項ヲ掌ル。

動力部ニ於テハ原動力、電燈及電話ニ關スル事項ヲ掌ル。

銑鐵部ニ於テハ銑鐵及骸炭ノ製造ニ關スル事項ヲ掌ル。

製鋼部ニ於テハ鋼ノ製造ニ關スル事項ヲ掌ル。

鋼材部ニ於テハ鋼製品ノ製造ニ關スル事項ヲ掌ル。

特殊鋼部ニ於テハ特殊鋼ノ製造及加工、鐵合金ノ製造鐵鋼並特殊金屬ノ製鐵ニ

關スル事項ヲ掌ル。

副産部ニ於テハ爐材ノ製造並副産物ノ收集及加工ニ關スル事項ヲ掌ル。

經理部ニ於テハ豫算決算及諸會計ニ關スル事項ヲ掌ル。

販賣部ニ於テハ製品ノ販賣ニ關スル事項ヲ掌ル。

研究所ニ於テハ技術上ノ研究ニ關スル事項ヲ掌ル。